

ハッピー通信



2025年1月21日発行
25-04号

現場から（最近のニュースから）

環境を整えても



イスラエルとイスラム組織ハマスが6週間の停戦期間に入りましたが、まだ、ウクライナとロシアの戦争は続いています。ニュースには大きく報道されなくとも、世界中のあちこちで紛争、戦争がなくなることはありません。また、世界を見渡すと、どこかで災害が起こっていて、大きな被害が出ている所もあります。コロナのパンデミックは収束したようですが、新しい病気が現れているので、それが広がらないように注意が必要だと言われています。このように、戦争、災害、病気などが多く、食糧の心配もせずに何不自由なく暮らせないと、さまざまな工夫や研究も進んでいます。しかし、ほんとうに何の苦労もなく生きることができれば、楽園に暮らす楽な人生になるのでしょうか。

それをマウスを使って実験した研究者がいるそうです。研究者の名は「カルフーン」、その実験名は「ユニバース25」、通称「楽園実験」と呼ばれているということです。動物行動学者のジョン・B・カルフーン（1917～1995）は、社会的なストレスなしにしたら、動物はどうなるのかという実験をしたそうです。カルフーンは、生物が生きる上での脅威は主に5つにまとめられるという前提で実験を始めました。その5つは、1：住む場所を失うこと、2：食糧不足に陥ること、3：異常気象や悪天候に晒されること、4：細菌やウイルスなどの病気にかかること、5：自分を食べたり殺そうとする天敵がいることだということです。

そこで、この5つを完全に排除したマウスのパラダイス空間を作ったのでした。最大3000匹のマウスが無理なく暮らせる環境に、雄雌4匹ずつ、計8匹のマウスを楽園に投入したのです。詳しい実験の経過は省略して、大まかな流れだけを紹介します。すべてに安心したマウスはどんどん子どもを生み、マウスの社会が形成されていきました。その中で、群れができる、地位争いや縛張り争いが起こるようになりました。すると、マウスの中に格差が生まれ、争いゆえに安心して子育てもできず、戦うのでマウスの子どもの死亡率が急上昇し、繁殖が止まってしまったのです。そして、新たな生命が生まれなくなって、1800日が過ぎたころ、絶滅が決定的になったということです。カルフーンはこの実験を27年間に24回実施していたので、25回目の実験だという「ユニバース25」と名付けていたのですが、実は、それまでのいずれの実験でも、最後は絶滅に至ったということです。（1月16日ナゾロジー＜【恐怖の楽園実験】飢えも天敵もない閉じた楽園で暮らすと生物はどうなるのか？＞より）

もちろん、マウスと人間は、まったく違います。しかし、この実験でも明らかのように、どんなに暮らしやすく、ストレスなしの環境にいても、争いや問題は発生するのです。環境や状況、条件がどうかということは、単なる動物であっても平和に暮らすことにはつながりません。そして、人間は単なる動物ではないので、どんなに環境を整えても、幸せが続くことはないのです。人が心に平安を持って生きて行くには、環境や状況、条件とはまったく関係ない要因があります。人間だけにあるその要因について、いっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれています。隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち碎いて勝利なさいました(ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださったことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」